

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 8 日作成)

| | | | |
|------------------------------|---|---|-------------------------------|
| 小委員会名 | 雪荷重小委員会 | | 主 査 名：高橋 徹 就任年月：2009 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 構造委員会 (荷重運営委員会) | | 委員長名：中島正愛 主 査 名：河井宏允 |
| 設 置 期 間 | 2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月 | | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物に係る雪荷重の実態を調査研究する ・ 建築設計時に考慮すべき雪問題についても広く情報を収集する。 ・ 上記知識の体系化を図り、もって建築物の質の向上に資する。 ・ 2010 年度：収集した情報を分析し、設計者のためになる情報に加工して取りまとめ、出版物として刊行する。 ・ 2011 年度：刊行された書籍を用いて講習会や PD などを開催する。 ・ 2012 年度：2014 年度に予定される「建築物荷重指針・同解説」改定に向けた検討を行う。 | | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | 委員公募の有無：無 主査：高橋 徹 (千葉大学) 幹事：堤 拓哉 (北方建築総合研究所) 委員：和泉正哲 (大崎総合研究所) 老川 進 (東京大学) 岡田 恒 (日本住宅・木材技術センター) 小坂橋裕一 (日建設計) 小竹達也 (大成建設) 桜井修次 (北海学園大学) 佐藤 威 (防災科学技術研究所) 苫米地司 (北海道工業大学) 富永禎秀 (新潟工科大学) 中島 肇 (清水建設) 前田博司 (福井工業大学) 三橋博巳 (日本大学) 三橋博三 (東北工業大学) | | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 建築物の雪害リスクマネジメント WG 建築物に関わる雪害の実態を把握し、建築物に関わる雪害を軽減するための設計資料の構築を分担する。具体的には、建築物に関わる雪害発生状況の把握し、これらに対して設計者がどのように対応しているかを調査する。この結果を基に、雪害に対する設計上の問題点を整理し、建築物における雪害を軽減するための設計上の留意点を提示する。 | | |
| 2010 年度予算 | 280,000 円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kouzou/s25/ | |

| 項 目 | 自己評価 |
|--------------------------------|--|
| 委員会開催数 | 4 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | 1. 雪と建築 (技報堂出版, 2010.8 : 教材委員会・出版小委員会へ協力) |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | 1. シンポジウム「雪と建築」開催 (教材委員会と共同主催) 参加者数 35 名 (雪と建築：技報堂出版) |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 刊行物「雪と建築」出版、シンポジウムへの協力。 2. 2010 年末から豪雪となり、各地で昭和 38 年豪雪並みの大雪を観測している。引き続き被害事例収集などに努めている。 3. 2014 年度改定予定の次期「建築物荷重指針・同解説」で考慮すべき項目を洗い出し、観測や実験の必要性について整理した。一部今冬から観測を開始している。 |
| 委員会活動の問題点 ・課題 | 1. 委員会の性格上地方在住者が多く、規定どおりの旅費を支給すると委員会開催 1 回で予算を使い切ってしまうため、出席者の偏りがみられ始めている。飛行機使用者には格安航空券使用などで対処していただいているが、JR 使用者の割引運賃適用が難しく苦慮している。 |